



ぐんやぐんや凧を作るう!

簡単に作れて弱い風でもよく揚がる凧を作ります。

- とき** 12月2日(日)～17日(日)
午前10時～午後5時
- ところ** 1階ロビー
- 持ち物** タコ糸
- 参加費** 無料 ※申し込み不要



合格のお守り配布します



機関車は急な坂道に登るときに線路に砂をまき、車輪がすべって空回りするのを防ぎます。試験合格のお守りとして、機関車の「すべらない砂」を無料で配布します。

※先着500人・1人1つ

とき 12月20日(日)～24日(日)



博物館
Museum
☎ 68-1881



企画展「列車のおもいで」好評につき会期延長 12月24日(日)まで

竹島水族館
Aquarium
☎ 68-2059

館長の
ひやうたん
小林龍二

桃井君と桃井さん(夫婦の飼育員)が西浦で2匹のアオリイカを釣り上げてきました。イカは飼育が難しく水質に敏感、軟体動物の割にガラスのココロで貧弱精神なので、バックヤードの水槽で実験的に飼育し、イカたちの精神状態を整えました。その結果「これはいける」ということになり、しかし2匹だけでは寂しいので、数を得るために夫婦は再び西浦へ向かいました。ところがこういう時に限って釣れない。結局、伊良湖へ行ったり師崎へ行ったり、桃井夫婦はイカを求めてタコのように三河湾中を陸伝いにニョロニョロ動き回り、最終的に10匹以上をゲットして展示にいたしました。

ガラス越しにイカを見ると、ブワツと体の色を変えて後ずさったり、遠くのほうからこちらを不安げに見てきたり、イカにも神経質で人間不信だったのですが、頭は良いらしく、しばらくすると水槽に慣れてたくさ

んのお客さんが見ても動じなくなってきました。イカと同じ一派のタコの場合、捕まってしまうと怒りと後悔をあらわにし、飼育導入初日からスキがあったらすぐに逃げてやるうという顔をします。両者は物事に対する基本的な姿勢や取り組み方が違い、タコは対外に向けた感情をあらわにし、イカは自責の怒りを心に貯めるタイプに見えます(個人の感想です)。そのためイカの方が飼育が難しく、あまり水族館で長期的に見られることはなく、竹島水族館でもこれまで展示はしたことが無かったと思います。イカの魅力と愛おしさが伝えられるよう、そのやりがいのある展示に桃井君が挑みます。



この2匹のイカも夫婦かもしれませんね。